

2020年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 福岡局)

日 時：2021年3月11日（木） 15:00～

場 所：株式会社ジェイコム九州 福岡局 3階役員会議室

出席者： 嘱託委員8名中8名出席（敬称略、順不同）

（会長）石井 幸孝

（委員）木本紳一郎、黒岩俊哉、宗寿彦、床嶋俊之、

【リモート参加】井芹美香、佐伯道郎、圓尾容子

（ジェイコム九州 福岡局）代表取締役社長 上村忠、取締役 中川伸司、

福岡局局长 小森智幸、林剛史、浅田明見（事務局）

（ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部）統括部長 仲川圭、篠原有、

岩中典子（書記）

【番組審議会議事公開】

1、開会挨拶等

（ジェイコム九州 上村代表取締役社長）

6月の株主総会にて社長に就任したが、コロナ禍で接触を控えており本日初めての挨拶となる。

私共のベースは、ケーブルテレビの放送事業である。それに加え、防犯・防災への取り組みにも日頃より力を入れており、行政・県警と各種協定も締結している。狭域の情報提供を放送することで、地域のみなさまに安心・安全をお届けすることが大きなミッションと捉えている。本日審議いただく番組に加え、そのような観点で皆様と審議させていただきたい。

（会長）

この1年間は、コロナウィルスに振り回され、地域の人々もコロナ疲れになっている。若者は出かけたくてウズウズし、高齢者は外出できず運動不足になり、皆が不安を抱えている。これからは、テレビで情報を見ることがとても大事になる。しかし、抑制させる情報が多く、乗り越えるための前向きな情報は少なく感じる。そのため人々がイライラしている。一番怖いのは、そういった人たちが、春先の行楽シーズンを迎え、出かける人が急に増えることで、第4波がくるのではないかということだ。そこで、地域密着のジェイコムとして大事な役割があると思う。本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。

2、放送番組内容について

- 1) 2020年度 地域コミュニケーション統括部方針
- 2) 2020年度 コミュニティチャンネル自主制作番組実績報告

3、審議

- 1) 自主制作番組（レギュラー番組）「福岡つながる News」DVD 視聴
- 2) 審議・意見交換

（委員）

コロナ禍で、テレビのニュース番組では、まずコロナ関連の情報が流れ、その後に通常のニュースが始まるような状況。「つながる News」は、もともと地元や地域情報の番組であると考え、コロナ関連情報などはL字などQRコードでよく、もっと中身を地元の情報にして放送したほうがよいのではないかと。視聴者は、コロナ情報よりも、地元の情報を見たい人の方が多いのではないかと。

「うまかもん」については、お店を紹介しているだけになっている。お店に行こうと思わせるのであれば、地図を出すなどの工夫をしてほしい。また、Net で検索したり、YouTubeを見てお店を選ぶ時代、YouTubeで見せるのであれば、サムネイル画像も工夫したほうがよいと思う。イベント紹介のコーナーでは、内容からすると男性2人のZoomでの会話など見たいと思う人は少なく、ホームページの情報などをメインに出し、ワイプなどで顔を見せるような工夫をしてもよいのでは。

（委員）

イベント紹介のコーナーについては、私も行ってみたいという気持ちになった。しかし、もう少し興味をそそるような見せ方があるとよいのでは。ローカルな情報で行動に結びつく情報発信になっていたと思う。

「#おみせ de うまかもん」について、どういう基準でお店選びをされているのかが気になった。食に関する番組は心を豊かに、そして楽しくすると思う。宗像・糸島など海沿いにもグルメのお店はあり、我々の故郷には美味しいものがたくさんあるので、ぜひ紹介いただきたい。身近にあっても知らない情報もたくさんある。そういった情報を紹介し、よい番組作りをしていただきたい。

（委員）

画面のデザインをもう少し工夫していただきたい。ナレーションが続くところでテロップを入れる等の見せ方の工夫もあるとよい。特に文字情報について、文字のフォントや色・大きさなどガイドラインを作ってはどうか。正確性と同じぐらい重要なこととして、美しさや魅力をこれから考えられてはどうか。

(委員)

番組司会者の服装について、背景と同色だったため、見え方まで考えられているのか疑問に思った。季節のことを話すために花の話題をされたと思うが、花ばかりが耳に残った。視聴者が心地よく聞くことを考えると、もう少し知識を持って話された方がよいと思う。+αの知識を視聴者は求めていると思う。

ジェイコム の役目は何なのか。ローカルに強いところだと思う。番組によって目的を明確にし、目的を達成するための落とし込みが必要である。

テイクアウトを紹介されていたが、何を伝えたいのかが分からない。テイクアウトのメニュー、店内でのメニュー、テイクアウトするときの注意点、予約はした方がよいのかなどの情報がなかった。伝えたい情報と視聴者が知りたい情報を整理されるとよいと思う。

(委員)

「つながる News」について、ゆっくり話されており聞きやすく、バリアフリーの印象を受けた。また、ご高齢者を対象にされているのかなという印象も受けた。話の流れはよいと思ったが、コロナの情報部分で、相談窓口など連絡先までであると親切なのではないかと感じた。イベント紹介の部分では、男性2人で紹介されていたが、女性のインタビュアーが合うのではないか。紹介している写真とBGMや背景とのイメージが違っていたので、工夫いただけるとよいと思った。「#おみせ de うまかもん」では、通常のお店紹介の情報番組と違いが分からなかった。コロナ対策への取り組みをメインで紹介しながら、テイクアウトやお店情報を紹介する流れであれば、視聴者とお店をつなぐ役割を果たせるのではないかと思った。今後、外観は見たことはあるが入ったことがないお店や、外観だけでは入りづらいお店などを紹介されていくとよいのではないかと思った。

(委員)

お店の特長・ウリが分からなかった。通常の情報番組と変わらないイメージで、明確でなかった。これを見て視聴者が行きたいと思うのかなと残念に感じた。集客につながるような出し方はできないだろうか。お店の特長をクローズアップしていただけるとよいと思う。

「つながる News」は、丁寧で簡潔で分かりやすいと感じた。レイアウト等の課題はあると思うが、内容は分かりやすく安心してみる事ができた。

(委員)

お店紹介では、お店の混んでいる時間や開店している時間、駐車場、行ったら得する情報などがあるとよいと思った。

(会長)

全体的にバランスも良く、明るく爽やかな感じがした。世の中では粗探しが多くなり、無難なものしか出せなくなり、どうやって地域密着の情報を出すのが課題。戦略を考えなければならぬ。

3) 自主制作番組（コロナ関連他特別番組）ダイジェスト DVD 視聴

4) 審議・意見交換

（委員）

台風特別番組について、時間がないため手書きで伝えられたのはとても良いと思う。いかに最新情報を出すかが重要なので、素晴らしいことだと思う。全体的なところでは、地元との連携を重視すると言われているが、この場と現場での地元連携に対する温度感に差を感じる。地元連携の重要度が現場に伝わっていないのではないか。いかに情報発信をしていくかが期待されていると思うので、社内でも重きを置いていただきたい。

（委員）

昨年4月最初に緊急事態宣言が発令されたころは、番組制作も市民生活も手探り状態だったと思う。我々も、大会の中止や体育館の利用ができない状態にあったが、コロナに関しては利用者からの不満は少なかった。番組を制作される中で、地元連携について考えていることと、現場での感覚にズレが生じているのではないかと感じる。現場とのズレをなくせば、思い描くものが制作できるのではないかと期待もある。スポーツ番組について、スポーツは大勢で熱狂的に応援するのが醍醐味であると思う。番組を拝見し、スポーツを取り上げてはいるが、観戦で盛り上がるのができない寂しさを埋めることはできないと感じた。

（委員）

ケーブルテレビの役割として、地上波でなく、ラジオでなく、YouTube でなく、何ができるだろうかと考えたところ、見逃したり、スルーされてしまうようなささやかな幸せや面白さをいかにくみ取るかということではないかと感じた。コロナ禍の中、なおさらささやかな幸せや面白さは非常に価値を持っているのではないかと感じる。

（委員）

地域で頑張っている方が出演し、またそれを励みに頑張ってもらいたいというのが伝わる内容だった。ジェイコムが強みは地域密着であると思う。過去の映像を生かし、このように頑張ってきたから今の喜びがある、というようなストーリー性のある放送の仕方もジェイコムだからこそできるのではないかと感じた。また、コロナ禍で行きたいが行けないようなところへ、カメラとディレクターだけで取材してはどうか。例えば工場見学など、子どもも楽しめるようなところを取材し、何曜日の何時から10分間というように、決まった時間に放送

するようにすれば、小さい子供からご年配の方まで楽しんでいただけるのではないかと。

(委員)

コロナで社会に緊張感や閉塞感が漂っていると思う。映像・映画やドラマを支援する中で、コロナ禍でも映画が公開されると劇場に来てくださる方が大勢いるのを目の当たりにし、皆映像に癒しのようなものを求めていると感じた。今のような旅行や外出ができない時に、映像の中で疑似体験することで癒されるということがあるのではないかと。ジェイコムの良さは、「つながる News」の女性司会者のような安心感を与えられるところではないだろうか。スポーツや学生の活動を紹介することで、感動の共有ができる場所、地域の身近な所で起きている感動を伝えられるところがジェイコムの得意な所ではないかと感じた。今後はぜひ癒しも一つのテーマとしていただきたい。

(委員)

台風時の手書きの情報は、非常に分かりやすいためになると思った。今後は元気がでるような番組作りに注力いただくことが、視聴者にも喜ばれるのではないかと感じた。ジェイコムの番組内容は独自性があると思う。今後もその路線はそのままに、頑張っていたきたい。

(委員)

女性の方が肩の運動をされる場所があったが、全身が映っている方が視聴者にはイメージしやすいと思う。スポーツについては、様々なスポーツを取り上げていただくことで、子どもたちも嬉しく、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんまで視聴されると思う。

(会長)

災害情報やコロナ関連情報、選挙など色々と努力されていると思う。選挙については他局でも取り上げるため、ジェイコムの役割は別にあるのではと感じた。感染症などのパンデミックの後には、癒しとして音楽や芸術が盛り上がると思った。オーケストラなど大変な思いをされていると思うので、番組などで応援してあげるのもよいのではないかと。話題が多くあり、ジェイコムがオールラウンドで対応しなければいけない時代でもあるため、ますます頑張っていたきたい。

4、閉会の挨拶

(ジェイコム九州 小森局長)

お忙しい中参加いただき感謝する。ジェイコムにとって厳しく、ためになる意見をたくさんいただいた。私も3年目になるが、皆様よりいただいた意見について、改善できているものと改善できないまま年を越しているものがいくつかあることを認識しつつ、日々どうすべきか取り組んでいる。ジェイコムの役割が地域密着であると考え、普遍的な福岡の地に

必要な映像や、人々との映像をどのように伝えていくのかということと共に、見ていただくという視点では、旅行先も SNS で調べる時代、放送する側も新しいメディアに、積極的にトライしていかなければいけないと感じている。まずは勉強するところから始めているが、それでは遅いという観点もあり、若い層を中心に、画作りをどうすべきかという取り組みを開始した。本日いただいた宿題は真摯に取り上げながら、できることは速やかに対応する。今後も意見をいただきながらより良いものを作りたいと思っている。

(終了)